《見方・捉え方〔27〕》　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　令和４年８月17日

居場所

《居場所》

◆　ふと，居場所の大事さに思いを巡らせることがあり，少し文字にしてみておこうと思うに至りました。念のためにネット辞書類で確認してみると，自分が普段使っている意味合いと異なることもなく，概ね次の2つが載っています。

　1⃣　人などが住んでいる所。居どころ。

　2⃣　その人が心を休めたり，活躍したりできる環境・場所。

◆　学校教育の世界では，ずっと以前から学校・教室における「児童・生徒の居場所」の確保はテーマになっていて，いじめ問題との対比，個人状況の理解，集団と個々人の在り方などから，しばしば「居場所づくり」として強く意識されてきたように思います。また，一人一人への取組が必要なケースの着目視点としては，その子の家庭における居場所の状況についても確認し合うことが当たり前になっていたように思っています。

◆　そうした面からの「居場所」の確認は，2⃣の意味の「心の休めどころ」の意味として，当該の児童・生徒に「心の休めどころ」があるのかないのか，また，心の在り方がどのような状態・状況になっているのか（自己肯定感・自己有用感などの状況）などが，学校教育がその子に対して成り立つ前提として重要であることが意識されていて，教員間での共通言語になっていたように思っています。

《今までの「居場所」理解》

◆　ネット辞書類での概念，学校教育の中での「居場所」の意味合いも含めて，私見的に「居場所」について文字化してみると次のようになりそうです。

①　自分の日常生活が成り立つ場所・空間としての居場所　〔場としての居場所〕

②　自分の心が落ち着くことができる場所・空間としての居場所　〔心の居場所〕

③　社会集団・組織（職場・学校・施設・地域など）の中での居場所　〔役割としての居場所〕

④　自分が歩んできた人生の中での「繋がりがある（あった）人たち」との関係性の中の居場所

　〔絆としての居場所〕

◆　辞書的な意味の2⃣の「活躍」という言葉は，社会的な関りや周囲の人からの着目などが前提にあるように思われますので，ここでは③の意味合いと同義になろうかと思います。④は，私のような年齢になって自分の日常性がどのような要素とつながって成り立っているかということを思ってみると，人生の経年の中にもそうした要素は以前からあったことと思いますが，特に退職後の自分の現在的な「居場所」との関りの要素を強く持っているように感じています。

◆　こうした概念整理（文字化）を試みてみたとしても，実際的な姿は千差万別だと思っています。生来的に人との関りが好きで，人と一緒にいたり会話したりすることが好きな人とそうでない人とでは，どちらが「心が落ち着ける空間」なのかは異なることになりそうですし，「心の居場所」と実際の空間としての「居場所」とは密接に連関していて「概ね一体」ではあるものの，微妙に異なる時も多くあることと思います。その人の居場所としての空間が（本意に反して）不充分な状態であっても，心が穏やかで自分としての意義，さらには尊厳を保つこともあることと思いますし，逆に，空間・環境が恵まれた中にいても，その人の心が穏やかに休んだ状態になっていなかったり，歪んでいたりする事例も多くあることと思います。

《「居場所」の現在地点》

◆　ネット社会が進展し，SNSが持つ意味が多様で大きくなってきて，そうした類に自分がどのように向き合ったり，活用したり，或いは無視したりするのかという「距離の取り方」に，自分の判断や「心の状況」が大きく関わっていること自体が，まさに「現代的」なのだろうと思っています。

◆　SNSが「個々人が連絡を取り合う通信機能」の意味を越えて，社会全体に向けて「自分の感情・意見を表出できる場」「自分の意見・パフォーマンスなどに賛同者を得られる場」「自分と同意見・反対意見・異意見の人の数の大きさの確認の場」などの意味を持つようになってきています。

◆　SNSの機能の中で，旧知の個々人が連絡を取り合うツールとして使う場合は，例えグループ設定していようとも，基本的には相手を特定した手紙・メール類と同じ範疇と言えると思っていますが，不特定多数の「社会，世間を対象として呟いたり，意見表明したりする場合」は次元が全く異なることになり，「不特定多数（公共）発信」の意味合いが付加されて，本来的には，必然的に「責任の明確性」が必要になることと思っています。その意味では「匿名性」（多くの場合，無責任性に繋がりやすい）をどの程度まで許容し合えるかというテーマは，他人を中傷する書き込みを制御する仕組みも含めて，大事なテーマだと思います。

◆　こうしたSNSの広がりや，SNSも大きく影響して形成されるネット社会・情報空間の進展に対する自分の向き合い方における「居場所」の捉え方も大事なことのように思えてきます。今までの➀～➃の捉え方に加えて，⑤として《現在の「ネット社会・情報空間」の中での居場所》をどのように捉えてみるかということだと思います。

《ネット社会の中での「居場所」》

◆　「ネット空間を活用して，自分の責任を明確にして不特定多数に向けて行う発信における居場所」は，「③　社会集団・組織（職場・学校・施設・地域など）の中での居場所」　〔役割としての居場所〕の範疇に入ると思われますが，この場合の「不特定多数」は漠然としていて「ネット環境のもとにある日本語の社会集団」くらいの概念になろうかと思います。ここでのポイントは，「自分の責任の所在（実在の名前など）」を明確にしていることが大事な点で，私自身も自分のホームページを通しての（読み手の方がいる前提での）自己有用感などは，自分の「居場所」の一つだと捉えていて，日常生活の中でも大きな要素になっています。

◆　SNSが広がり始めた頃に，私自身も複数のSNSに入りましたが，結局のところ匿名・仮名性が気になり，実質的には「旧知の個々人の通信機能」としてのみ使っている状況となっていますので，「ネット空間を活用して不特定多数に向けての，自分を匿名・仮名の位置においての発信における居場所」については，私は捉えること・理解することが難しい感じがしています。「呟き」やボタンクリックの行為が「人を悲しませたり傷つけたりすることにならずに，自分の心が休まったり，活躍感を覚えられる居場所になる」事例がどの程度の広がりや深まりを持っているのかも，私には見当もつかない状況だと思っています。

◆　更に別視点から格別の留意が要りそうなのが，社会全体に向けて「自分の感情・意見を表出できる場」「自分の意見・パフォーマンスなどに賛同者を得られる場」などを意識（期待）して意見表出したりパフォーマンスをアップしたりした場合の「不特定多数の側からの反応」の在り方も，投稿者の「居場所」との関係では重要な意味を持つことがあるように思います。反応の有無や内容によっては，孤立感・孤独感を際立たせることになる可能性も大いにあり，内面的に「傷ついた状態になる」ことも充分懸念されるところだと思います。

《仮想空間体験と現実体験》

◆　「ネット社会・情報空間」の更なる進展が見込まれる中で，格別に大きな意味や影響を持つと思われるのが《バーチャル空間（仮想空間），バーチャル体験（疑似体験）》　だと思っています。AIの進展によるバーチャル空間の格段の充実，ビジネスモデルとの融合による新領域への広がりなど，文字通りの「日進月歩」の状態になることと思っています。

◆　学校教育の世界でも，授業中に使える『源氏物語の時代の宮中のリアル体験』『観て触れて実感できるパルテノン神殿』などのコンテンツがふんだんに準備されていたり，教室空間自体が仮想空間として位置付けられ，本人の代わりにアバターが《身代わり学習活動》を行い，その疑似学習活動を通して，本人の学びが広がったり深まったりすることになる可能性は大きいように思っています。

◆　そうした「仮想空間」は「仮想空間」としてのみ多様な空間世界を現出するだけでなく，現実世界と「実際的に繋がっている」ことに大きな意味が生まれるのだろうと思っています。今回のテーマの「居場所」との関連だけで捉えてみても，社会の在り方，自分と社会の関わりの在り方が大きく変容しそうに思えます。

①　自分の日常生活が成り立つ場所・空間としての居場所

⇒　仮想空間のショップなどを訪れて，商品を見て，触れて，大きさなども確認して「購入する」と，該当

商品が自宅に届けられる可能性。

②　自分の心が落ち着ける場所・空間としての居場所

⇒　自分が思い描く「理想の仮想空間」に入って，納得の安らぎ空間の中で過ごせる可能性。

③　社会集団・組織（職場・学校・地域など）の中での居場所

⇒　「所属・個人特定」などを前提としつつもアバターによる参加や活動の可能性。さらには，「所属・個人

　　特定」をしない仮想空間での活動が大きな価値を生み出す可能性もあるように思いますし，危うさにも

大きなものがあるようにも思います。

④　自分が歩んできた人生の中での「繋がりがある（あった）人たち」との関係性の中の居場所

⇒　この「居場所」は，そのほとんどが自分の「心の内側に属する」ことだと思えますので，仮想空間との関わ

りは少ないように思います。しかしながら，更なる将来を考えると，お互いに生きているうちから「特別な仮

想空間」において「特別なアバター」に，身体特徴，資質・能力（知識・技能，思考力・判断力・表

現力など），性癖などの「情報」を長年にわたって入力してきていると，仮想空間においては，亡くなった

人（アバター）とも「会話できる」可能性すら生まれるのではなかろうかと思います。・・・　が，それが幸・

不幸を含めて，どんなことになるのかは見当もつきません。

《「居場所」視点を変えて捉えてみると》

◆　これからの「ネット社会・情報空間」の進展は，加速度的に拡がったり深まったりすることが見込まれますが，これからだけでなく，今までに「居場所」に類したものが，仮想的なものも含めてどのようなものがあるのか考えてみました。「居場所」の語に空間・場所の要素と心の要素があることから，「心の領域，精神領域」の歴史を見ると，心の平穏への願いや大願成就への願いなどを背景に霊的なもの・神的なもの・宗教的なものとの関わりの中に「居場所」を求めている面があるように思います。

◆　私見的な見方でしかありませんが，《自分の居場所》について，《自分自身に基本軸がある場合》と，他方でその基本軸を「自分でない他者や霊的なもの・神的なもの」などの《言わば「仮想空間」の中に基本軸を置いている場合》とがあるように思っていて，ここの違いが，人の在り方や行動原理の大きな違いの一つになっているように思っています。人としての精神活動の《根源的なこと》が，自分の内側にあるか，自分の外側にあるかの違いが大きいように思っています。

◆　「霊的なもの・神的なもの・宗教的なもの」については，日本や世界の歴史を見ても，理念性，崇高性，普遍性などが高い次元で成り立っていて，多くの人々に永く広く受けとめられているのものあれば，排他的で権威主義，創始者絶対主義の要素が強く，関わる人に「こちら側に心の居場所を置くこと」を求めるような特徴を持ったものなどもあるように思います。《自分自身に基本軸がある場合》で，自分の精神性を豊かにする要素になっているものもあれば，《霊的なもの・権威的なものに基本軸をおいている場合》で，現実世界での生活・行動と乖離や歪みまでを惹起しているものまでがあるように思っています。

◆　これからの社会の在り方や，その中での「居場所」の在り方について，重ねて思いを巡らせてみると，精神領域については，今までの歴史の文脈と同じような特徴や危うさを抱えているように思えてきます。これからの社会においても（今までと同じように），自分が願う「夢物語」が《仮想実現》する可能性が高まることになるかもしれないし，そのことにはプラス面も多いが，同時に危うさも多くあるように思っています。

《まとめ的に》

◆　今とこれからを生きていく児童・生徒，教職員にとって，バーチャル空間の飛躍的な進展が見込まれるこれからの社会の中における個々人の「居場所」の在り方・捉え方は大事なことだと思っています。そこを着目点として，心や精神領域の在り方について，見方・捉え方を整理したり意見交換したりすることで整理できることも多くあるように思っています。

◆　今の学校教育の大きな価値の一つに《主体的に，深く学び続ける》という概念がありますが，前提としての，或いは並行しての《自我の確立》の大事さや，考えを巡らせたり判断したりする《自分自身に基本軸を置くこと》の大事さを改めて確認するとともに，そのことと一体的に，学びや仕事業務について《主体的に考えながら取り組み続けることができる》ことの大事さを思っています。